

南アフリカ共和国

Republic of South Africa

	2016年	2017年	2018年
①人口：5,773万人（2018年央）			
②面積：121万9,090km ²			
③1人当たりGDP：6,377米ドル （2018年推計）			
④実質GDP成長率（%）	0.4	1.4	0.8
⑤消費者物価上昇率（%）	6.4	5.3	4.7
⑥失業率（%）	26.5	26.7	27.1
⑦貿易収支（100万ランド）	30,791	64,939	24,281
⑧経常収支（100万ランド）	△125,102	△118,234	△172,962
⑨外貨準備高（グロス） （100万米ドル）	47,356	50,722	51,641
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	142,833	173,286	172,384
⑪為替レート（1米ドルにつき、 ランド、期中平均）	14.71	13.33	13.24

〔注〕⑥：第4四半期、⑦：国際収支ベース（財貨・サービス）、⑩：2018年は9月末時点
〔出所〕①④～⑥：南アフリカ共和国統計局、②：南アフリカ共和国政府、③⑩：IMF、⑦～⑩：南アフリカ共和国準備銀行

2018年の南アフリカ共和国（以下、南ア）の実質GDP成長率は、農業の不振や個人消費の低迷、民間企業による投資の手控えにより0.8%となり、前年の1.4%を下回った。貿易は、油価上昇に伴う原油輸入の拡大により黒字幅が縮小した。対日貿易は、レアメタルや鉄鉱石の輸出が増加し、黒字幅が拡大した。

■総固定資本形成が低調で成長率は鈍化

2018年の実質GDP成長率は0.8%で、前年の1.4%を下回った。産業別では、前年に2桁成長を遂げた農業が干ばつ被害のため再び不振に陥り、前年比4.8%減となった。電力公社エスコムの計画停電、賃上げ要求のためのストライキなどを受け、鉱山の生産停止が影響し、鉱業は1.7%減となった。金融・保険・不動産・企業サービスは1.8%増とプラス成長を維持した。

需要項目別では、2019年5月に実施された国民総選挙とその後の組閣まで企業がリスク回避すべく機械・同機器や輸送機器への設備投資を控えたため、総固定資本形成は1.4%減となった。また、原油輸入の拡大により財貨・サービスの輸入が3.3%増となりGDPを押し下げた。GDPの約6割を占める民間最終消費支出も前年比0.3ポイント減の1.8%増にとどまった。

2018年の為替レートは、世界的な経済不安を受けて年間を通じて変動しながらも、2月にジェイコブ・ズマ前大統領が与党内の反対圧力により辞任し、経済再生・汚

職撲滅を公約とするシリル・ラマポーザ大統領の就任に市場が好感した影響が大きく、年間平均では対米ドルで前年比ランド高となった。この結果、輸入価格が低下し消費者物価指数（CPI）上昇率は2018年通年で4.7%と前年の5.3%から低下し、南ア準備銀行の目標圏内（3～6%）に収まった。

■2019年は緩やかな成長回復を予測

IMFは2019年4月の発表で、南アの2019年のGDP成長率は1.2%と、前年から緩やかに回復すると予測した。一方で、5月の国民総選挙後も不透明な政治状況が続いており、財政再建と電力公社エスコムをはじめとする非効率な国営企業の構造的問題の解決が必要だと警鐘を鳴らした。準備銀行の6月発表によると、2019年第1四半期のGDP成長率は3.2%減と3期ぶりのマイナス成長となった。製造業が石油・化学品、自動車、木材製品の生産縮小により8.8%減となったほか、農林水産業も主要穀物のメイズや野菜・花卉^{かき}の生産減少の影響で、13.2%減の大幅減となった。金融・保険・不動産業・企業サービスは1.1%増で、15期連続でプラス成長を維持し、経済を下支えた。

表1 南アフリカ共和国の需要項目別実質GDP成長率

	2017年	2018年				2019年	
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	
実質GDP成長率	1.4	0.8	△2.7	△0.5	2.6	1.4	△3.2
民間最終消費支出	2.1	1.8	1.1	0.1	0.6	3.2	△0.8
政府最終消費支出	0.2	1.9	4.6	2.1	0.4	0.6	1.3
国内総固定資本形成	1.0	△1.4	△9.3	△3.8	△0.7	△2.5	△4.5
財貨・サービスの輸出	△0.7	2.6	△14.1	4.0	26.0	11.1	△26.4
財貨・サービスの輸入	1.0	3.3	△1.4	0.9	22.3	△16.0	△4.8

〔注〕四半期の伸び率は前期比。

〔出所〕南ア準備銀行

■貴石・貴金属、自動車の輸出拡大

南ア歳入庁によると、2018年の貿易（通関ベース、暫定値）は、輸出が前年比4.7%増の1兆2,431億ランド、輸入は同11.2%増の1兆2,313億ランドとなり、共にランド建てでは過

去6年間で最高を記録した。貿易収支は118億ランドで3年連続の黒字となったが、輸入の18.5%を占める鉱物性燃料が国際原油価格の上昇に伴い拡大(39.2%増)したことにより、黒字幅は前年の799億ランドから大幅に縮小した。

輸出を品目別にみると、いずれも金額ベースで貴石・貴金属(構成比17.7%)が前年比10.6%増、鉄鉱やマンガンなどの鉱石・スラグおよび灰(12.4%)が2.1%増となったが、国内の電力不足に伴う近隣諸国への電力輸出の減少により火力発電用の原油・天然ガスなど鉱物性燃料(10.6%)が6.2%減となった。自動車の排ガス触媒として用いられるプラチナは数量ベースで59.7%減(金額ベースで3.0%増)となったが、プラチナの代替として使用されるパラジウムが国際価格の上昇を背景に金額ベースで25.9%増(数量ベースで5.7%減)となった。金は金額ベースでは4.3%増、数量ベースでは7.6%増だった。自動車をはじめとする輸送機器(11.6%)の輸出は、ランド高が進み輸出競争力が低下する中でも10.3%増となった。乗用車輸出の4割強を占めるドイツ向けが小型車の輸出が好調で38.3%増となったほか、輸出シェア2位の日本向けも7.0%増となった。南ア自動車製造者協会

(NAAMSA)によると、乗用車の輸出台数は小型商用車の伸びにより全体の57.1%を占め、3.7%増の34万9,000台となった。2018年の国内の自動車生産台数は1.6%増の61万1,000台で2年連続の増加となった。

国・地域別輸出では、首位の中国が輸出額1,132億ランドとなり、前年比2.1%減となった。構成比は前年の9.7%から9.1%に低下した。品目別では輸出の3割弱を占める鉄鉱石が金額ベースで15.9%減、クロム(16.3%減)、鉄鋼原料となるフェロアロイ(12.4%減)も大幅に減少したが、マンガンは58.9%増と大幅に増加した。前年3位のドイツ(構成比7.6%)は輸出額の約半分を占める輸送機器が前述のとおり好調で11.9%増で米国を抜いて2年ぶりに2位となった。3位の米国はフェロアロイの輸出が不調だったため、前年比5.3%減となった。

サブサハラ・アフリカ(以下、サブサハラ。構成比26.2%)向けは前年比6.1%増となった。前年6位の隣国ボツワナは、南アからの石油輸出の増加(27.3%増)を背景に全体で5.3%増となったが、前年の6位から7位に後退した。前年7位のナミビアは同国向け最大輸出品目の自動車が10.7%減少し、8位となった。域内3位(全体9位)の輸出相手国のモザンビークは南ア国内港の代替

表2 南アフリカ共和国の主要品目別輸出入(暫定値) <通関ベース>

(単位:100万ランド、%)

	輸出(FOB)					輸入(FOB)			
	2017年	2018年(暫定値)				2017年	2018年(暫定値)		
	金額	金額	構成比	前年比		金額	金額	構成比	前年比
貴石・貴金属など	198,546	219,632	17.7	10.6	鉱物性燃料	163,276	227,227	18.5	39.2
鉱石・スラグおよび灰	151,150	154,393	12.4	2.1	一般機械など	146,287	152,298	12.4	4.1
輸送機器	130,497	143,996	11.6	10.3	電気機器・同部品	113,245	114,271	9.3	0.9
鉱物性燃料	140,207	131,591	10.6	△6.2	輸送機器	93,008	93,257	7.6	0.3
鉄鋼・同製品	80,513	83,360	6.7	3.5	プラスチックおよび同製品	33,052	37,365	3.0	13.1
一般機械など	71,547	76,966	6.2	7.6	医療用品	29,787	32,842	2.7	10.3
食用果実、柑橘類など	45,151	48,741	3.9	8.0	光学機器など	28,534	29,932	2.4	4.9
合計(その他含む)	1,186,932	1,243,066	100.0	4.7	合計(その他含む)	1,107,004	1,231,295	100.0	11.2

[出所] 南ア歳入庁

表3 南アフリカ共和国の主要国・地域別輸出入(暫定値) <通関ベース>

(単位:100万ランド、%)

	輸出(FOB)					輸入(FOB)			
	2017年	2018年(暫定値)				2017年	2018年(暫定値)		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
中国	115,632	113,234	9.1	△2.1	中国	202,938	226,509	18.4	11.6
ドイツ	83,869	93,845	7.6	11.9	ドイツ	127,379	121,652	9.9	△4.5
米国	88,647	83,981	6.8	△5.3	米国	72,759	73,135	5.9	0.5
英国	46,357	64,007	5.2	38.1	サウジアラビア	51,217	71,711	5.8	40.0
日本	55,478	59,343	4.8	7.0	インド	52,184	51,010	4.1	△2.2
インド	55,289	58,667	4.7	6.1	ナイジェリア	22,855	50,845	4.1	122.5
ボツワナ	51,189	53,923	4.3	5.3	英国	33,252	41,261	3.4	24.1
ナミビア	47,544	47,211	3.8	△0.7	タイ	33,233	38,476	3.1	15.8
モザンビーク	38,711	42,671	3.4	10.2	日本	37,684	37,845	3.1	0.4
オランダ	36,989	41,187	3.3	11.4	イタリア	29,564	33,955	2.8	14.9
ベルギー	33,016	32,330	2.6	△2.1	フランス	27,862	27,317	2.2	△2.0
合計(その他含む)	1,186,932	1,243,066	100.0	4.7	合計(その他含む)	1,107,004	1,231,295	100.0	11.2

[出所] 南ア歳入庁

港として利用され、鉄鋼・同製品が前年比約2.9倍となり、全体で10.2%増となった。域内4位のザンビアは自動車が増加（35.7%増）し、全体で7.3%増だった。EU向け（構成比23.7%）は11.0%増となった。乗用車の伸びが大きく牽引したほか、オランダ向けのアボカドをはじめとする果実・かんきつ類（6.6%増）も寄与した。

■原油価格の上昇により輸入額拡大

輸入を品目別にみると、鉱物性燃料（構成比18.5%）のうち、原油は2018年を通じた国際価格の上昇により金額ベースで前年比69.5%増、数量ベースでも20.7%増となった。石油は国内の石油精製施設の改修による生産能力回復を背景に、数量ベースでは14.3%減となったが、金額ベースでは1.2%増だった。一般機械（構成比12.4%）、電気機器・同部品（9.3%）はそれぞれ4.1%増、0.9%増となった。輸送機器のうち半数以上を占める乗用車（構成比4.2%）は2.5%減となった。自動車部品は国内生産台数の増加を受け、11.6%増となった。

国・地域別輸入では、12年連続で中国（構成比18.4%）が首位となった。総額の26.6%を占める電気機器が前年比11.7%増となり、全体では11.6%増となった。2位のドイツは輸送機器（17.5%減）や電気機器（11.4%減）が減少し、全体で4.5%減となった。3位の米国は一般機械（6.2%増）、光学機器（5.7%増）が増加し、前年比0.5%増となった。前年5位のサウジアラビアは原油が金額ベースで前年比54.8%増（数量ベースで同7.5%増）となった

ことから全体で40.0%増となり、4位に浮上した。前年4位のインドは石油の輸入が大幅に減少（48.6%減）し、全体で2.2%減となり、5位だった。サブサハラからの輸入（構成比11.7%）は26.3%増加した。域内輸入の35.2%を占めるナイジェリアからの原油輸入が大幅に増加（2.2倍）したほか、ガーナからの原油輸入も12.5倍となったことが大きな要因とみられる。

■対内直接投資は2013年の水準に回復

南ア準備銀行によると、2018年の対内直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は前年比2.6倍増の706億2,700万ランドだった。2018年2月に就任したラマポーザ大統領は「今後5年間で1,000億ドルの対内投資を呼び込む」という目標を掲げ、投資特任チームを編成するなど投資促進に力を入れている。一方、対外直接投資は前年比38.6%減の602億6,700万ランドだった。2018年の外国企業による南ア向けの大型投資案件では、東京海上ホールディングスによる南ア保険大手ホラードの株式22.5%取得発表（50億ランド、2018年9月）、伊エネル・グリーン・パワーによる南ア風力発電所建設事業への資本参画（2億3,000万ユーロ、2018年8月）や、仏廃棄物処理大手セシェ・エンバイロメントによる廃棄物処理大手・インターウェイストの買収（2018年11月）などがあつた。

南ア企業の対外直接投資案件では、保険大手サンラムによるモロッコ保険大手サハムの株式53.4%追加取得（10億5,000万ドル、2018年3月）の大型案件があつた。

表4 南アフリカ共和国の主な対内直接投資案件（2018年）

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
物流	阪神阪急エクスプレス	日本	2018年1月	買収額非公表	南アフォワード・イントラスピードの株式66.7%取得
IT・通信	NEC	日本	2018年2月	買収額非公表	南アICTソリューション・エクソン（XON）の株式59.1%取得・子会社化
IT・通信	アフリカドットコム	米国	2018年7月	買収額非公表	南ア通信大手MTNと南ア放送大手プリメディアが保有するiAfricaの株式譲り受け
エネルギー	エネル・グリーン・パワー	イタリア	2018年8月	2億3,000万ユーロ	南アの風力発電プロジェクト（計700MW）への資本参画
金融・保険	東京海上ホールディングス	日本	2018年9月	50億ランド	南ア保険大手ホラードの株式22.5%取得
廃棄物処理	セシェ・エンバイロメント	フランス	2018年11月	買収額非公表	南ア廃棄物処理大手インターウェイストの完全買収

〔出所〕 各社発表および報道などから作成

表5 南アフリカ共和国の主な対外直接投資案件（2018年）

業種	企業名	投資国・地域	時期	投資額	概要
保険	サンラム	モロッコ	2018年3月	10億5,000万ドル	モロッコ保険大手サハムの株式53.4%追加取得、計100%取得
鉱業	ゴールド・フィールズ	ガーナ	2018年3月	1億8,000万ドル	カナダ資源大手アサンコ・ゴールドと合弁のガーナ金採掘株式会社の株式45%取得
建設	WBHO	英国	2018年7月	3,280万ポンド	英国建設ラッセルズ・コンストラクションの株式60%取得
金融	エソス・ファンド	アラブ首長国連邦	2018年11月	7億ランド	UAEフィンテック大手チャンネル・ヴィー・エーエスへの投資
通信・娯楽	ナスパーズ	インド	2018年12月	6億6,000万ドル	インド食品配達大手スウィギーへの追加投資

〔出所〕 各社発表および報道などから作成

ほかにも、通信・娯楽大手ナスパーズによるインドの食品サービス大手スウィッギーの株式追加取得（6億6,000万ドル、2018年12月）、資源大手ゴールドフィールズによるガーナの金鉱会社アサンコ・ゴールドの株式45%取得（1億8,000万ドル、2018年3月）、建設大手WBHOによる英ラッセルズ・コンストラクションの株式60%取得（3,280万ポンド、2018年7月）などがあった。

■対日貿易額は輸出入ともに増加

歳入庁によると、2018年の対日輸出は前年比7.0%増の593億4,300万ランド、対日輸入額は0.4%増の378億4,500万ランドにとどまった。南アにとって日本は、国別輸出額で中国、ドイツ、米国、英国に次ぐ5位となり、前年の4位から順位を下げた。輸入相手国では日本はナイジェリア、英国、タイに抜かれ前年の6位から9位となった。

対日輸出を品目別で見ると、自動車の排ガス浄化触媒に使用され輸出総額の約半分を占める白金族（プラチナ、パラジウム）は金額ベースで前年比9.7%増だった。このほかに輸出額の増加を牽引したのは、フェロアロイ（32.7%増）、マンガン鉱（13.6%増）、鉄鉱石（7.3%増）だった。

対日輸入を品目別で見ると、総輸入額の16.8%を占める乗用車が5.7%減となった。また、電気機器・部品は7.6%減、2018年11月にセーフガード追加関税措置の対象となった熱間圧延フラットロール製品の輸入が前年比89.0%の大幅減となった。一方で、タイヤなどのゴムおよび同製品は2.2%増となったほか、印刷機をはじめとする一般機械が1.8%増、主に医療用の光学機器などが4.8%

減となった結果、輸入全体では前年比ほぼ横ばいだった。

日本の財務省統計によると、2018年の南アへの対外直接投資額（国際収支ベース、ネット、フロー）は1,386億円で、2017年の1,190億円から増加した。近年の主な動きでは前述の東京海上ホールディングスによる保険大手ホラードへの出資（50億ランド、2018年9月発表）のほか、NECによるシステム開発大手エクソン（XON）の株式59.1%取得（買収額非公表、2018年2月発表）、阪急阪神エクスプレスによる南アのフォワーダーであるイントラスピードの株式66.7%取得（買収額非公表、2018年2月発表）などがあった。また、南ア政府が2018年10月に主催した「南ア投資サミット」において、伊藤忠商事が権益を持つプラチナ鉱山開発事業アイバンプラッツを通じて今後約3億ドルの投資を行うことや、住友ゴム工業のタイヤ工場拡張にかかる投資、トヨタ、日産ら日系自動車メーカーを含む南ア国内で生産を行う自動車メーカーからは今後5年間で総額27億ドルの拡張投資を行うことなどが約束された。また、2018年11月にはコマツが9億8,500万ランドを投じた本社オフィス、工場、研修施設を含む「コマツキャンパス」をヨハネスブルク市内にオープンした。2019年に入ってから、4月に日産が前述の投資会議での約束に沿うかたちで、南ア工場拡張に向け30億ランドの追加投資を発表。また、6月に大阪で開かれたG20 に出席するため来日したラマポーザ大統領は「日・南アビジネスCEOビジネスラウンドテーブル」で、日本企業約20社に対し南アへのさらなる投資を呼びかけた。

表6 南アフリカ共和国の対日主要品目別輸出入 <通関ベース>

(単位：100万ランド、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (FOB)			
	2017年	2018年 (暫定値)				2017年	2018年 (暫定値)		
	金額	金額	構成比	前年比		金額	金額	構成比	前年比
貴石・貴金属など	24,683	27,072	45.6	9.7	輸送機器	10,139	9,199	24.3	△9.3
鉱石・スラグおよび灰	7,310	8,312	14.0	13.7	一般機械	8,107	8,252	21.8	1.8
輸送機器	7,506	7,992	13.5	6.5	電気機器・同部品	2,070	1,912	5.1	△7.6
鉄鋼	3,391	4,530	7.6	33.6	ゴムおよび同製品	1,371	1,400	3.7	2.2
木材および同製品	2,515	2,551	4.3	1.4	光学機器など	1,151	1,026	3.2	△4.8
アルミニウムおよび同製品	1,861	1,875	3.2	0.7	鉄鋼	867	733	1.9	△15.4
鉄鋼製品	1,264	1,216	2.0	△3.8					
合計 (その他含む)	55,478	59,343	100.0	7.0	合計 (その他含む)	37,684	37,845	100.0	0.4

〔出所〕南ア歳入庁